

令和6年7月号

ゆう's ねっと

つくり すこしずつ行こまいか

ENA

発行／恵那市青少年育成市民会議 第47号

第20回 恵那市少年の主張大会

6月15日(土曜日)、恵那文化センターで、第20回恵那市少年の主張大会を開催しました。市内8中学校の代表生徒が、ステージ上で熱い思いを発表しました。審査の結果、明智中学校の横光ひかるさんが最優秀賞に選ばれました。最優秀作品全文と、優秀・奨励賞作品の要約を紹介します。(YouTube恵那市公式チャンネルでもご覧いただけます)



「夕星」又の名前を「宵の明星」。「夜這い星」又の名前を「流れ星」。古代から受け継がれてきた美しい日本語。その歴史は諸説ありますが、今からおよそ二千年前の弥生時代に日本語の基盤ができたのではないかと言われています。その日から現在まで、日本語は姿形を変えながら伝えられてきました。「漢字」「平仮名」「カタカナ」の三つの文字で表記され、「敬語」や「方言」など、様々な使い方があります。しかしだからこそ日本人独自の感性を育むことができ、そんな日本語に私は誇りを持っています。

日本語には様々な種類や表現技法があり、その使い方によって伝わるニュアンスが違います。

まず、物事や人物を他のものに喩えて相手に伝える比喩表現。「あの人はまるで月のような人だ」という文では、後者の方がおっとりとした性格の持ち主であるというイメージが浮かんできませんか？この表現技法は鎌倉時代初期につくられたとされる小倉百人一首にも多く使われ、寂しい気持ちや思い焦がれる心情がとてもしく表されています。次に、「舞い上がる」や「咲き誇る」など動詞の複合によってできた「複合動詞」。例えば「舞い上がる」を用いて「桜が舞い上がる」という文を作ってみると、まるで本当にそこで桜が舞っているかのような映像を頭に浮かべることができるのではないのでしょうか。またこの文の興味深い点は、桜が風に吹かれていく様子を「舞う」という舞台上で踊る姿と照らし合わせて表現しているところです。このように「複合動詞」には、私たちの目で見たことや、心で感じたことなどを映像のようにして相手に伝えることができる効果があります。さらに本来の美しさを単体で表すことができるのも日本語の魅力です。春の訪れを告げる鶯のことを「歌詠み鳥」と表したり、雲がないのに雨が降ってくる様子を「天が泣いている」と表現し「天泣」



美しい日本語

最優秀賞

明智中学校 3年生 横光ひかる

と呼んだり。夕暮れ時を表す「黄昏」は、薄暗い夕方に人の見分けが付きにくく「誰そ彼」と古くに言われたのが始まりだとされています。このように自然や歴史が絡み合い、連鎖し、変化していきながら、繊細で美しい日本語が生まれてきました。

日々の生活において言葉は私たちの感情を揺さぶる大切なスパイスです。小説や映画、舞台や歌など、伝えたいことを伝えるには「言葉」が必要不可欠です。そんな「言葉」というものを豊かな日本語を使い表現を駆使して伝えることで、感動が生まれます。しかし一方で言葉とは皮肉なもので、「人を傷つけてしまう道具」にもなり得てしまいます。SNSが普及し、顔が見えないことをいいことに、誰かを意図的に傷つけたり、悲しませたりするために吐き出される言葉。言葉が凶器として使われ、悲しい事件が後を絶たない、そんな現状があります。しかし、言葉とは誰かを傷つけるために生まれてきたものではなく、「言葉」とはお互いを理解するため、人と人とを繋げるためにあるもの。古代から受け継がれてきたそんな大切なものが人を傷つけるために使われ、汚されていってしまうのはとても残念なことです。私は言葉が誰かの人生を輝かせるものであってほしい。美しく、表現豊かな日本語には誰かを感動させる力や、生きる希望になる力があると信じています。そしてそんな日本語の美しさは後世にも伝えていくべきものです。そのために今私たちにできることは何でしょうか。様々な意見や方法があると思います。そしてそれに正解も不正解もありません。しかし、まず第一にできることは、現代に生きている私たちがもう一度日本語の美しさに気づき、感じ、大切に使うことではないでしょうか。私たちはこれからの世界や未来をつくっていくことができます。だから私たちの言動一つで変わる何かがあるかもしれない。そんなこれからの未来でもずっと美しい日本語が使われ、言葉というものを大切にしていくことを、私は願っています。

優秀賞（3名）

※発表順



愛情の連鎖

 恵那北中学校
3年生 樋田 妃南

虐待は絶対に許してはいけない。小さな子どもにとって大切なことは、大切な人がいつもそばにいること。それだけで安心する。できるだけいつもそばにいて。一緒に遊んで。一緒にご飯を食べて。たくさん話を聞いて。一緒に笑って。その温もりで愛情を感じ、自分が受けた愛情を次の世代に繋いでいく。愛情の連鎖で、世界から虐待が消えることを願う。



野生動物との共生

 申原中学校
3年生 堀 千紘

野生動物の被害は全国的にも大きな問題になっている。人間が知らず知らずのうちに野生動物を引き寄せる環境を作っていることを自覚しないといけない。現状を知り、よく理解し、向き合っていくことが大切。野生動物を除外するのではなく、共生することを私は望む。「野生動物は害」というイメージを変えることから始めませんか。



僕の未来のビジョン

 恵那東中学校
3年生 紀藤 寿明

どん底に落ちただけ学び・気付きがある。それをどう生かすかが重要。自分が成長できたと感じた時、世界とつながり、世界を感じる瞬間があった。こんな世の中だからこそ、幸せの種を増やしていきたい。僕の夢は世界中の人を笑顔にすること。いま、自分と自分の周りから笑顔を広めている。

奨励賞（5名）



私の町

 恵那西中学校
3年生 曾我 愛々

私の町、武並町。どうしたら人口減少を止められるか考えた。自分の町をきれいにすること。この町といえばこれ、と誇れるものを広めること。若者が遊べる場所を増やすこと。行政のPRも重要。生まれ育った大切な町がおばあちゃんになっても残っていくように、一人一人の意識と行動が大切だ。



言葉の選択

 上天作中学校
3年生 塚田 稀空

自分が言われて嫌な言葉はありますか。相手を気遣っているつもりでも言われた側は傷つくことがある。相手を温かい気持ちにできる人もいれば、誹謗中傷で傷つける人もいる。言葉には人を動かす力がある。少しの言葉でもずっと心に残り続けるほどの力がある。そんな言葉の力を理解し、過ごしやすい社会を創っていきこう。



多様な意見で豊かな社会に

 恵那西中学校
3年生 熊崎 麗

周りに合わせて自分の考えを話せない状況は窮屈だ。窮屈さを作り出している自分自身の在り方を変えていきたいと強く思う。自分の意見を話すのは勇気がいるが、よく話し、よく人の意見を聞くことで、考えが豊かになっていく。あなたも、未来の自分を想像して過ごしてみてほしい。多様な意見を大切に、豊かな社会を目指していきたい。



今の自分

 岩田中学校
3年生 三輪 愛夏

過去の自分は、自分の趣味・好きなことを人に言うのが恥ずかしかった。でも今の自分は、好きなことを仕事にしたいと自信を持って言える。「周りに同じ趣味の人がいなくても、世界にはたくさん仲間がいる」との言葉に心を動かされた。自分の夢が誰かの役に立つ仕事ではなくても、自分が決めた夢に向かって頑張りたい。自分の好きなことに自信を持つことが大切。



介護と私たち

 山岡中学校
3年生 小木曾 詩

認知症を患う曾祖母との経験から、介護に関心を持つようになった。少子高齢化の現代、「介護は自分に関係あることだ」と思って過ごすべきだ。特に地域や近所の人との関わり合いを増やし、大切にすることでこの問題について考えたりできるのではないかな。介護は特別なものではなく、当たり前に身近にあるということを、多くの人に思ってもらいたい。



大会の司会は、恵那高等学校放送部の生徒お二人が務めてくれました。また、主張発表後のアトラクションとして、恵那高等学校音楽部の皆さんが合唱を披露してくれました。



寄せられた感想

● 思いを精一杯表現できる若者の存在に力をもらいました。自分の思いをこれだけのステージで堂々と発表できることを、今後の自信としていつてもらえることを望んでいます。
(三郷町・50代)

● 鋭い視点で社会や自分の生活などを見つめていて、とても説得力がある内容と、表現力にハッとさせられました。大人の私たちにも気付かされることが多かったです。中学生の方たちの将来を応援したくなりました。
(明智町・60代)

● 今の中学生は多様な時代に生きており、自分の意見をしっかりと持っている。孫たちに幸あれと思わざるを得ない。来てよかった。
(武並町・70代)

● 声のトーン、語り口調、身振り手振り：すべての皆さんの一生懸命な姿とオリジナルティあふれる内容に感心するばかりでした。この若者たちがいれば、日本は、いや世界は明るいと思います。
(山岡町・50代)

● 平和であって平和ではない日本・世界がある中、地元恵那市で足元を見つめ自分の主張をしつかり持ち発表できる皆様の成長を期待しています。幸福感とは何か、生活する中で自分を見つめたい。
(大井町・60代)

家と学校だけじゃない

子どもの 居場所

多くの子どもにとって、一日の大半を過ごす場所は、おそらく家や学校でしょう。しかし近年、「子どもたちには、家や学校だけではない、別の居場所が必要」という考えが広まっています。

例えば大人でも、家や職場などで悩みやストレスを抱えることがあります。そんな時、どこか違う場所に行ったりして気分転換やリフレッシュすることがあると思います。

子どもだってそれは同じ。「家にも学校にもいたくないな」という気分になった時に、気持ちの切り替えができる場所、とりあえずホッとできる場所、嫌なことを忘れて元になれるような場所に気軽に行くことができれば、きっと、健やかに育っていきけるのではないのでしょうか。

このコーナーでは、子どもにも大人にも知ってほしい「子どもの居場所」について紹介していきます。今号では、一例として、大井町にある「スポンサー食堂KENちゃん」にお邪魔し、インタビューしてみました！



スポンサー食堂 ケンちゃん

恵那駅から徒歩3分！



どんな場所？

大井町のシェアキッチン「shares」で、月に数回開かれていた子ども食堂です。18歳以下の方なら誰でも、カレーライスを無料で食べることができます。大人でも、子どもと同伴であれば利用できます（大人は300円が必要）。

いつ利用できるの？

月に3～4回ほど営業しています。時間は、午後4時から7時まで。ただし、カレーライスが無くなり次第終了です。営業日は、お店の玄関に掲示してある黒板で確認するか、公式Instagramで確認してください。



▲公式 Instagram

運営：株式会社HONZIN
代表取締役 野田さん

居心地が
すごく良い！



夕飯を用意
できない時
助かってます



試験勉強の
合間に
来てまーす



来る理由なんて
なくていいよ。
気軽に来てね！



ゆう'sねっとENAでは、今後も、子どもの居場所を紹介していきたいと思っています。「こんな所があるよ！」という情報を、ぜひお寄せください。また、掲載希望の方も、お気軽にご連絡ください。

お問い合わせ

恵那市青少年育成市民会議事務局(恵那市教育委員会事務局社会教育課) TEL 26-6853

町民会議の活動

東野

5月11日、五月晴れの土曜日。東野史跡巡りウォーキングを開催しました。こども園年少から小学生まで43人を含む総勢94人もの参加がありました。「東野散策MAP」の史跡をめぐる3コースを、無理なく散策できるよう4コースにアレンジし出発。市民三学東野委員会の方の説明を聞きながら、3～3.8Kmのコースを2時間ほどかけて巡りました。最長コースには、300段ほどの階段を上る箇所がありましたが、小学生たちは我先にと駆け足で上り、元気いっぱいエネルギー！解説のお話を聞くとときは静かで真剣に耳を傾けていました。

～東野推進員の感想～

自分たちが暮らしているこの地に、どんな歴史があったのか、どのように現代まで伝えてきたのか、少しでも知ることによって郷土への関心や愛着が深まってくれたらと思います。



ピカチュウ

っと光る
☆☆☆☆ 学生を見つけたよ！

山岡中

今年はどんな絵柄かな？ 「田んぼdeアート」の田植えに参加

6月2日(日)、山岡駅南側の田んぼで「田んぼdeアート」の田植えが開催されました。

「田んぼdeアート」は、田んぼを大きなキャンパスに見立て、種類の違う稲苗を植えることでアートを描くもの。今年は6種類の稲苗が植えられました。

主催者の「山岡元気プロジェクト」のメンバーに混ざって、山岡中学校の生徒5人もボランティアで参加。図面を参考にしながら手植えで作業を行いました。

昨年発足した「山岡元気プロジェクトJr」では、田んぼdeアートで収穫した清水米を使用した商品を考案し、イベントなどで販売しました。今後も商品開発に取り組み、町内外に幅広く「山岡町」と「田んぼdeアート」をPRしていきます。



田んぼdeアートの見頃は7月下旬から8月。イワクラ公園展望台から見渡せます。

中学生の皆さん！市子連の活動に参加してみませんか！

恵那市子ども会指導者連絡協議会(恵那市子連)では、青少年の健全育成を目的に、親子サマーキャンプやドッジビー大会、かるた取り大会などの活動を行っています。

一緒に活動をお手伝いしてくれる中学生ボランティアを募集しています。まずは気軽に参加してみませんか。

○今年度の活動(予定)

- 7月28日(日) 親子サマーキャンプ 場所：望郷の森キャンプ場(中野方町)
- 11月 3日(日) ドッジビー大会 場所：まきがね公園体育館
- 2月 2日(日) かるた取り大会 場所：大井小学校体育館

○お問い合わせ 恵那市子ども会指導者連絡協議会事務局(社会教育課) TEL0573-26-6853



親子サマーキャンプ



ドッジビー大会